

いっしょに Parents, Teachers and Students 育てていきたいから。

保護者、教員、そして生徒が紡ぐ一高の絆



甲府第一高等学校 PTAだより We are KOFU FIRST HIGH SCHOOL.

2020 July
KOFU FIRST High School
PTA Profile Paper vol.21
山梨県立甲府第一高等学校PTA

変わらぬご協力をお願いします 総務広報主任 土屋 浩之

日頃よりPTA活動へのご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。4月に予定していたPTA関係の諸会議も中止や規模縮小のなかで行われました。PTAクラス委員と学年代表をスムーズに決定していただき、書面による決議によりPTA組織及び活動を開始できたことを、係としてありがたく感じています。

3月の卒業式直後から、日々の生活が大きく変わりました。保護者の皆様方にも、いろいろな場面で、ご苦労があったのではないのでしょうか。学校は、ほぼ通常を取り戻そうとされていますが、生徒は不安を抱えたままの生活だと想像します。まだまだ先の見えない状態ですが、生徒が充実した1年を過ごせるよう保護者の皆様の変わらぬご協力をお願いいたします。

◎5月8日(金) PTA拡大役員会の様子



PTA新会長の挨拶 校長先生の挨拶 学年主任の挨拶

「コロケーション」という壁 教務主任 河西 秀章

「その表現は文法的には正しいけれども、果たしてネイティブの人たちは本当にそんな表現をするのかなあ?」この疑問は、英語教員である私が持ち続けている疑問です。いわゆるコロケーションです。例えば日本語でも、「宿題」という名詞だったら、一緒に使われる動詞は大体「をする」です。「宿題をする」は自然な日本語です。もし「実行する」という動詞を使って、「宿題を実行する」といわれると、文法的には正しいし意味も解りますが、ナチュラルではないです。少なくとも私はその表現は使いません。このように、どうしてもネイティブスピーカーでなければ判断できない表現があります。

先日、本屋さんで「英語コロケーション辞典」というものに出会い、購入しました。帯にある「ネイティブが使うこなれた英語を身につける」という言葉にも惹かれました。今まで英文の指導で常にぶち当たっていた壁を、この辞典を使って指導していきたいと考えています。

学食がスタートしました

新しい経営者を迎え、今年4月に学食が復活しました。メニューも豊富で、定食・ラーメン・うどん・カレーライスなどが揃っています。食券を午前中、早めにご購入いただければ安心して食べられます。密を避ける工夫として、座席は一方向を向いています。



未曾有の出来事

保健相談主任 時澤 豊見

新年早々、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で通常の学校生活が始まらない「未曾有の出来事」が起きました。毎日のように県から届くコロナ関係の文書。感染者の状況で日々変化する対応策。計画や事業が頓挫する状況。年度の始めの内科、耳鼻科、眼科、歯科、心電図・結核検査、尿検査、身体計測など、保健関係の行事日程を何度変更したことだろうか。今後、我々は「新しい生活様式」を実践・行動していかなければなりません。

- ①手洗い・手指消毒
 - ②マスク着用・咳エチケット
 - ③こまめに換気
 - ④健康チェック
 - ⑤3密(密閉空間、密集場所、密接場面)を避ける
 - ⑥人との接触を8割減らす
- など。

生徒へは事あるごとに指導しますが、久しぶりに会う友人と接する時には忘れ去られたような光景がある。嬉しさではしゃぐ気持ちも分からないではないが、誰もが感染するリスク、誰でも感染させるリスクがあります。ウイルスとの共存はやむを得ない世の中において、身近な人の命を守るように、すべての生徒に理解してもらおうよう努力したい。皆様のご家庭においても是非、日常生活を見直してみたいと思います。

創立140周年を迎えて

本校は、明治13年(1880年)に県下初の中学校として創立され、令和2年(2020年)10月に創立140周年を迎えます。10月22日(木)に甲府第一高等学校において、記念式典・記念講演会を行います。講演会では、本校卒業生の甲斐雨畑規本舗13代目の雨宮弥太郎氏を講師に迎えることになっています。

また140周年記念事業協賛金募集も順調に進んでおります。募金を基にした事業として、

- ①教育・学習活動助成(日新基金奨学金基金補充・強化)
- ②公用車更新(マイクロバス・ワゴン車)
- ③記念式典、記念誌発行、生徒への記念品
- ④母校・同窓会情報広報の現代化
- ⑤学校設備整備(各教室にパソコンプロジェクターを設置等)を予定しています。なお、生徒への記念品は、岩波新書の「読書力」齋藤孝著を配付することになっています。



軌道に乗ってきた1年のグローバル探究 (6月)



フェイスシールドで授業 (6月)



再会を喜ぶ分散登校日 (4月)



アクリル板越しの二者面談 (4月)

知恵を寄せ合い、 乗り越えてきた2020上半期

入学式・学園祭など大きな行事は新型肺炎防止対策により中止となりましたが、Google Classroomを使ったオンライン授業やドライブスルー方式の登校、県のガイドラインに従った部活動などを経て、少しずつ前進してきました。



<http://www.first.kai.ed.jp/>

一高ホームページは、保護者向けのサイトも充実!!
保護者向けに発行している便り、学校ホームページでも閲覧できます。
学校行事や生徒会活動、トピックスなどの情報が盛りだくさん!!
ぜひご覧ください。一高の「今」を実感していただけます。

携帯電話からは、右のQRコードよりアクセス!!



甲府第一高等学校PTAだより We are KOFU FIRST HIGH SCHOOL 2020 July
発行◎山梨県立甲府第一高等学校PTA
〒400-0007 山梨県甲府市美咲2丁目13-44 tel.055-253-3525 fax.055-253-3527
発行日◎令和2年7月31日
編集◎山梨県立甲府第一高等学校PTA広報委員・総務広報係



PTA会長
若月 栄治

大きく変わる成長の年

私は、平成元年に一高を卒業しました。今、改めて「一高生で良かったなあ」と思えるのは、充実したたくさんの思い出があるからです。伝統として、一高が代々大切に受け継いできた行事、自分達が考え新たに挑戦したものの、そのどれもが楽ではありませんでしたが、いい思い出であり、自分の財産になっています。

時代は、平成から令和に代わり、人の考え方や価値観、生き方も変化しています。その中で、私たちがかつて経験したことのないコロナウィルスとの戦いが始まり、私たちは、日頃の

生活様式までも変化を求められるようになりました。しかし、この大変(大きく変わる)な状況乗り越えた先に、成長した自分があると信じています。

大きな夢、高い志を持った生徒のみなさんが将来、私と同じように「一高生で良かったなあ」と思えるよう、私も全力で応援していきたいと思っています。

最後に、保護者の皆様、先生方にお力添えを頂き、この一年一生懸命大役を務めさせていただきます。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



校長
小林 俊一郎

伝統校の力

4月・5月という1年で最も慌ただしくも生徒の希望や活気に満ちていたはずの2カ月が、コロナ禍によって突然学校生活の中から消えてしまいました。生徒にとっては、部活動の最後を飾ることのできなかつたやりきれなさ、休校に伴う受験に対する心配、先の見えない将来への不安でいっぱい2カ月だったことと思います。6月半ばになってようやく、徐々にではありますが、通常の学校生活へ戻ることができました。校内に生徒の明るい声が響き、やはり生徒がいるからこそこの学校であることを、私も痛感しています。

甲府一高は今年創立140周年を迎えます。YCC文化ホールで記念式典・講演会を予定していましたが、新型コロナウイルス

の感染防止の観点から、会場を本校に変更して式典等を簡略化し、生徒には教室で視聴してもらった形式をとることにいたしました。会場はどこであろうと、ここで生徒に実感して欲しいのは伝統校で学ぶことの強みです。140年の歴史の中で、戦争や大災害を乗り越え道を切り開いてきた偉大な先輩方が数多くおり、その先輩方が築いた伝統が、不安な時代に生きる皆さんを、きっと勇気づけ支えてくれる。一高生は、数多の同窓生からその成長を見守ってもらっていることを、改めて実感して欲しいと思います。

コロナ禍の今後はまだ予測できませんが、生徒はいたがらずに不安に苛まれることなく、この学び舎でお互いに励まし合い高め合って、世に出る力をつけてもらいたいと、心から願っています。

PTA副会長 3学年委員長 加賀美 準一

未曾有の時に、思うことを記す機会を得ました。お子様にお伝えいただければ幸いです。

緩やかな勾配、狭い川幅、遅流れ鋭き流れ
四角い升には四角く、丸い碗には丸く
地形に器によって有り様は完全に決められ、
水自体はただそれに従う。

熱せられれば沸き、冷やされれば凍り
集まれば青き海に、散れば無色の雪に
外力に状況によって有り様の全ては決められ、
水自体はただそれに従う。

水はどこまでも水であり、自由自在。
未来たちよ、身のうちにある音に耳を澄ませ。
融通無碍な水であれ。

PTA副会長 2学年委員長 山本 栄喜

一高祭を始め様々なイベントが中止になっている現状を大変残念に思い、また生徒の皆さんの悔しさは計り知れないことと察します。

昨年も台風により一大イベントである「強行遠足」が中止となってしまいました。

またこのような現状では今年も開催が危ぶまれる状況ではないかと危惧する声も聞かれますが、先生方をはじめPTA、同窓会の「今年こそは開催したい」という思いにより、開催の方向で準備をしています。強行遠足は一生忘れることのない、そして一高生しか体験できない貴重なイベントです。

後輩と手をつなぎ歩いた道、究極にうまかった「塩むすび」すべて私の宝物です。

今年こそは決行できるよう最大限の対策と努力をいたしますので、生徒の皆様も勉強の傍ら体力づくりにも励んでください。

PTA副会長 1学年委員長 小沢 忠雄

今年3月に息子が卒業、4月に娘が入学と甲府第一高等学校には、縁があり、お世話になっております。

コロナ禍の中、当たり前だった光景が消え、生徒、一人一人が多くの不安を抱え、負担を強いられて新年度を迎えた事と思います。

私自身も当たり前だった以前の生活がどれ程大切で、幸せなことだったのかを実感し、日々過ごしています。

これから先、保護者、先生方及び後援会の皆様と1日も早く学生が普段の生活スタイルを取り戻し、進路への準備が出来るように協力し合えるPTAでありたいと思っています。

今年、一年間よろしく願っています。

柔軟性

3学年主任 新津 康介

最近ストレッチをサボりがちである。歳をとると体の柔軟性ととも心の柔軟性も失われるように思う。コロナウィルスの影響で、授業ができない、進路指導ができない、また部活動の最後の締めくくりの機会が失われた生徒も多く、落ち込んでいるのではないかと心配した。「困った」ばかり言うてはいられない。Googleクラスルームでの授業配信、校内ドライブスルー、今までの価値観を変えれば、できることがあることもわかった。生徒達はどんな思いで休校期間を過ごしたのか気になったが、登校してくる生徒達を見ると、元気だった。この数か月を通して、変化に柔軟に対応する力は大切だと思う。教員が思う以上に若い高校生には対応力がある。現状を嘆くのではなく、どんな状況に置かれてもその状況に対応していくことは「生きる力」である。コロナ禍を乗り越えるために(?)3学年職員有志でポロシャツを作った。その背中には「We are in the same boat.」感謝の気持ちを忘れず、心の柔軟性も大切にしなければと思う。

深く広く根を張る

2学年主任 石井 裕久

学校にもすっかり慣れ、様々な活動の中心的な役割を3年生から引き継いで、2年生が一高を動かしていく段階になりました。そういう意味では忙しいはあるでしょうが、1年生をリードするカッコいい先輩であってほしいです。

さて、2年生は高校生活の中で「自分の時間」を最も持てる時期です。自分の興味や関心のあることをとことん深掘りしてください。掘っている途中で硬い石にぶつかっても打ち砕くくらいのパワーを持ってほしいものです。とはいえ、今の環境や能力ではどうにもならない場合は、方向転換する柔軟さも必要でしょう。深く根を下ろすとともに、幅広く根を張ることで、これからの人生の土台が確かなものになっていくと思います。

スタート

1学年主任 永井 勇太郎

長い休校とその後の分散登校がようやく終わりました。今後1学年では、お子様が少しでも早く高校生活に慣れることができるよう行事や指導を工夫していきたいと思っています。1学年の目標の一つ目は、「とにかく何でもやってみる」ことです。まずは何事も経験です。目標の二つ目は、「先を見て動く」ことです。自分のすべきことに優先順位をつけられるようになってもらいたいと思います。そして目標の三つ目は、「取り組むことに意味づけをする」ことです。何のために何をするのか、どう取り組めば意味ある事のできるのか、を考えながら過ごしてもらいたいと思います。お子様が有意義な高校生活を送れるよう、保護者の皆様のご理解とご協力をお願い致します。



生徒自治会 前会長 3年 三浦 葉水妃

私達は日常生活にその都度、幸せを感じることは殆ど無い。大抵の場合それが当たり前ではなくなった時、はっと気付かされるのだと思う。東日本大震災の時もそうだった。教室で授業を受けることや友達と話しながら昼食を取ること、何も気にせず部活をすること。日常の中の些細なことがどれだけ幸せなことだったのかということ約三ヶ月の休校期間を通して改めて実感した。今少しずつ日常が取り戻されてきているが、明日が来るのが当たり前では無いということ忘れずに一日一日を大切に過ごしていきたい。

ア・カペラ部 部長 3年 埴 拓己

新型コロナウイルスによって活動休止となっていた部活動が、徐々にではあるが再開することができるようになったことをとても嬉しく思う。ア・カペラ部では、3年生の引退がうやむやにならないよう、7月18日に保護者のみを対象としたコンサートを一高の各文化部と合同で行うこととなっている。3年間の集大成として行うには小規模ではあるが、けじめをつけるという点で非常に有意義なコンサートにしたいと考えている(6月末日現在)。

ア・カペラ部ではフェイスシールドの使用や屋上での練習など三密を避けながら活動を行っている。今後も活動方法を模索しつつ笑顔を届ける音楽を続けていきたい。

野球部 主将 3年 樋 春生

私たち野球部は、1年生12人、マネージャー2人を加えた33人で活動を再開しました。休校期間中に甲子園とその予選大会が中止になり、このまま終わってしまうのかな…と、とても不安になりました。しかし先日、夏の代替大会が7月23日に開幕することが決まり、今はその大会に向けて頑張っています。まだ練習時間は短く満足な練習はできていません。ですが今回このような体験をして、グラウンドで思い切り野球ができることのありがたさを感じることができました。二年数ヶ月一緒に頑張ってきた仲間や、ずっと支えてくれた家族への感謝の気持ちをもって、自分に納得のいく形で高校野球を終られるようにしたいと思います。

応援団吹奏楽部 部長 3年 志村 菜々子

私たち応援団吹奏楽部は新型コロナウイルスの影響で5月3日に開催予定だった定期演奏会が延期に、毎年夏に行われる吹奏楽部コンクールが中止となってしまいました。正直な感想としては、とても悲しい残念です。特に定演は1年かけて準備を進めてきたプログラムや演出が予定通りには開催することができなくなったため、どうしてもコロナが無かったら…という思いが消えません。しかし、コロナだからこそ学べたこともありました。その中の一つは日常の大切さです。みんなと一緒に部活動ができることのありがたさを強く感じました。このことを活かしながら、コロナに何らかの意味を持たせられるよう、8月の定演に向けてみんなで頑張っていきたいです。

サッカー部 代表 3年 松田 侑也

新型コロナウイルスのため、3月より部活動の活動休止が続いていた。現在、6月の中旬に差し掛かるが、まだ部活動は完全には再開されていない。夏休みに3年生の引退する大会が検討されている。しかし、3年生はそれぞれの進路を実現する必要があるために簡単に大会に出場すると断することはできない。それを今、3年生のみみんなで考えているところだ。私は約2年間サッカー部のみならずサッカーを通じて時間を共有してきた。だから最後に試合をして気持ちの整理をしてから次のステージに進みたいと考えている。どんな決断に至っても私達は大切な仲間である。それをふまえて私達の将来につながる最良な決断をしたい。

箏曲部 部長 3年 齊藤 雪乃

6月より部活が再開され、約1ヶ月経ちました。練習が始まる前には必ず手を消毒し、コロナ対策を行った上で活動しています。箏曲部は昨年行われた県の芸術文化祭で最優秀賞をいただき、8月に行われる全国総合文化祭に出場するため高知に行く予定でした。しかしコロナの影響により、Webでの開催になりました。様々な行事が中止になる中、Web上ではありますが演奏の場を与えてくださったこと、本当に感謝しています。Web用の動画を撮影したら3年生は引退ですが、悔いの無いよう楽しく演奏したいと思います。私たちの演奏はYouTubeにあがるので、ぜひご覧になってください。

将来への希望

教頭 興石 登

目覚ましい技術の発展などによる急激な社会の変化に伴い、教育界でも様々な改革が進められていますが「次代を担う人材を育てる」という教育の目的はいつの時代も変わりません。

人工知能やIOTが活用される時代だからこそ、本校の校是 Boys, be ambitious! を軸として、主体性や協働性を重視する授業や探究活動等を実践し、情報や機械には無い豊かな心と幅広い教養の育成を大切にしたいと考えています。

PTAや同窓会の皆様に支えられ、積みかさねた歴史と伝統。その学び舎に集う生徒一人一人の将来が希望で満ちたものとなるように、私たちは全力でサポートしていきます。

「学び」の一步

教頭 崎田 哲

「同じ方向を指すのに、なぜ東北と北東という2つの言葉があるのでしょうか?」…某先生との会話中に投げかけられた素朴な疑問です。話が進むうちに、northeastという言葉はあってもeastnorthという言葉がないこと、北東のことを東北ともいう事例は日本を含むアジアに見られることに気づき、洋の東西で基軸とする方角が異なり、欧米文化が流入する中で、日本に同じ方角を指す2つの言葉が成立したのではないかとこの仮説にたどり着きました。

考えることから「学ぶ」楽しさが始まる…ふだん「検索」に頼りがちな我々ですが、ふとしたときに「学び」の一步に遭遇することがあります。5月まで続いた休校は、そのことに気づく機会だったのかもしれない。